

会 議 録

会議の名称	令和5年度所沢市総合教育会議
開催日時	令和5年8月18日（金） 午後1時30分から午後2時15分まで
開催場所	所沢市役所 低層棟3階 全員協議会室
出席者の氏名	所沢市長 藤本 正人 教育長 中島 秀行 教育長職務代理者 吉本 理 教育委員 寺本 彰、教育委員 宮本 陽子 教育委員 森田 理恵、教育委員 清水 国明
欠席者の氏名	
説明者の職・氏名	
議題	(1) 教育大綱の運用状況について (2) その他
会議資料	・ 令和5年度 所沢市総合教育会議 次第 ・ 資料「所沢市教育大綱への想い」 ・ 出席者名簿
担当部課名	経営営企画部 : 鈴木部長、柳田次長 教育総務部 : 千葉部長 教育総務課 : 鈴木課長 学校教育部 : 中田部長、櫻井次長、吉川学校教育担当参事 (事務局) 経営企画総務課 : 奥井課長、小川主幹、関根主査 電話 04(2998)9046

発言者	内容審議の内容（審議経過・決定事項等）
開会	[議長である藤本市長の進行により議事が進められた]
議長	<p>この会議は、法律に基づき設置するもので、市長と教育委員会の連携強化等を目的に教育行政について協議・調整を図る場である。コロナの影響でここ数年は開催出来なかったため、久々の開催となる。</p> <p>何かを決定する会議ではないので、忌憚のないご意見をいただきたい。</p> <p>本日は、教育大綱について改めて事務局から説明したのち、運用状況を聞き、その後、意見交換を行う流れを予定している。</p>
事務局	<p>[教育大綱についての説明]</p> <p>大綱の策定はいわゆる地方教育行政法により、「地方公共団体の長は地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする。」とされている。</p> <p>この法律では、大綱を定めるときは、予め総合教育会議で協議するものとされていることから、平成 27 年度より総合教育会議で協議を行った。</p> <p>大綱の位置づけは、本市の教育に対する理念や将来に向けた方向性を支援し、具体的な政策については、教育振興基本計画等において示すこととしている。</p> <p>大綱の有効期間は、特に設定をせず分量も A4 判 1 枚程度でまとめるという方針になった。</p> <p>大綱の方針は、本市教育の基本理念である三つの宝、すなわち心身のたくましさ、未来を拓く知恵、ふるさと所沢を愛する心、これらを踏まえて特に市長として、義務教育課程において臨むことや目指すことを具体的に挙げている。</p> <p>最終的に大綱の案について、この総合教育会議の中で多角的に審議いただき、平成 27 年 8 月から平成 30 年 2 月まで、合計 6 回の審議を経て、平成 30 年 4 月に定められた。</p>
議長	<p>教育大綱への想いを読んでみると、「所沢市は真に子どもを大切にするまちマチとなろう。大切にすることは、子どもを信じることだ。なで回すことじゃない。奥にしまひ込むことでもない。烈風の中に置かれても、耐えて遅しく、時に凌いで、みずからの生を謳歌せんとする子ども自身の力を信じることだ。」</p> <p>「時に凌いで」とは、当時の教育委員会の皆様で検討していただいた時に、ただ耐えて頑張っていくというだけではなく、困難になった時にうまくかわす力はあった方が良くかもしれない、という意見をいただきながら「時に凌いで」と入れた経緯がある。</p> <p>「それには愛情の裏付けがなくてはならない。覚悟がなくてはならない。命を尊ぶ誓いがなくてはならない。」</p> <p>やはり命を大切にしようという思いを込めてこの一文を入れたが、残念ながら、その少し後に、南陵中の事件が 3 件続いた。</p>

「豊かな自然がなくてはならない。子どもたちが堂々と社会に躍り出ていくその日まで、大人は目をそらさずに、絆を深めながら、子どもたちとともに歩んでいこう。」

最後の「絆を深めながら子どもたちとともに歩んでいこう」というのは、最初の原案は違ったが、あまり文面が押し付けがましくなってはいけないので子どもたちとともに絆を深めて歩んでいこう、大人たちも、という意味で書いてある。また、「自然」という言葉が出てくるが、大自然の中で生きていくことこそが、子どもたちの生きる力を育てていくと思う。これは市政方針の中で私が思っていることでもあり、清水教育委員さんが、自然の中に、私たちは子どもたちの中に放り出されたときに、この社会の中でストレスが溜まっていたりする。細胞が自然の中に解き放たれたときにこそ生き生きとして、むしろ、自然の中でありがたいと言っているのだというお話も入れている。

「目指す四つのこと」、価値の提示、生きる指針ともなる大切な価値を伝え、どう生きるべきかという、その価値をやはり教育の中で伝えていかないと、日本はバラバラになってしまう。押し付けがましいかもしれないが、ここは逃げずにしっかりと書いた。

「一、価値の提示」

生きる指針ともなる大切な価値を伝えていく。

「一、心身の鍛錬」

人と自然の中で、心と体を鍛え、単なる勉強だけではなくて、人間の中でたくましく、自然の中できちんと生きていける、そういう心と体を鍛えることをやはりやっていかななくてはならないということで、決めさせていただいた。

「一、基礎学力の養成」

学力の基礎基本は、これを全員が身につけられるよう支援する。学校教育においては、基礎学力がないとその後の系統的学習では戻れない。自分に自信がなくなり、自分自身をスポイルしていくことがたくさんあるが、生きている上での基礎基本をきちんと伝えてあげて本人が努力すれば、これは教育体制の中でできるのではないかと思う。九九や掛け算など基礎基本の部分についても、きちんと全員が身に付けられるようにしようということで、あえてここに入れさせていただいている。

「一、経験の蓄積」

生きた経験を通して自分自信を持ち、人の素晴らしさを知る。

子ども時代は、自分に自信を持たなければいけない。人間って素晴らしいと感じるような経験をたくさんさせてあげて、そして社会に送り出していく必要がある。

結局、この教育大綱とは、私達所沢市が教育に対してどのようにしていくかという誓いを表わすものである。このような指針に則って、所沢市が逃げないで、きちんと教育施策を展開していこうという、むしろ所沢市や

	<p>大人に対する戒めや規定として、教育大綱を位置づけた。</p> <p>このように、生きる力をきちんと認識する。自分のことを大切に思い、人のことを大切に思える、そんな気持ちの、心のふるさとを作って、工夫して社会を形作っていこうという願いが込められたのが、教育大綱である。それでは、学校での教育大綱の運用状況を説明願う。</p>
学校教育 担当参事	<p>【学校での教育大綱の運用状況について】</p> <p>各学校では教育大綱にある方針のもと、学校経営を進めている。</p> <p>具体的な取組としては、一つ目は「学力向上推進事業の学び創造アクティブプラン」である。</p> <p>子どもたちは、誰もが出来るようになりたいと願っているという能動的学習者感に立った理念のもと、必要感、達成感、自己肯定感、未来を拓く力を柱とし、学び合い学習や、ウィークデーチャレンジ、それから学習ボランティアの活動等を通して、学校・家庭・地域が一体となって、一人ひとりの子どもたちの良さや可能性を伸ばす取組をしている。</p> <p>もう一点申し上げますと、「こころのエネルギープロジェクト」の取組である。</p> <p>児童生徒の自己肯定感の醸成を図るとともに、一人ひとりがかかけがえのない存在であること、自分も友達も大切にしてほしいことなどを児童に伝えてきた。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大により3年にもわたるマスク生活を強いられたことにより、子どもたちの心が大きく傷ついており、このような状況も踏まえて、強くたくましい力をつけていくことも併せて伝えている。</p> <p>学校においてその他にも様々な取組をしているが、教育大綱にもある、「四つの目指すこと」を意識しながら、「ふるさとの宝」である子どもたちのために学校も全力で取り組んでいる。</p>
委員	<p>教育大綱は基本的に全くぶれておらず、素晴らしいと思う。今の世の状況からすると、プラスもう一つ必要であると思った。Society5.0 というものか。つまり、バーチャルとリアル融合という時代になったのではないか。</p> <p>私が自然の中で行っていることは、知識と現実とが違うということを、企業研修でもやらせている。火の起こし方は知っているが、実際にやらせてみると、うまく火を起こせずマッチ3本を使い切ってしまう。つまり、知っていることと出来ることは違う。バーチャルの知識で知ったことがリアルでは通用しない。そういうリアルで通用して初めて知識として生きる。</p> <p>Society5.0 という時代が、この大綱にあるように、我々は現実のリアルのことを刻々と進めようとしているが、世の中や子どもたちの中ではバーチャルなど仮想の現実で過ごしている子たちが多く、世の中がそうなっている。</p> <p>オフ会とリアル会とを繋ぎ止めるような施策もプラスで必要な現状があるのではないかという気がする。</p>

委員	<p>火をおこす話に関連して、今年になってからの教育委員会会議で出た話だと思うが、飯盒炊飯のような学習の話が出た。その時に5年生が火傷をしてしまった。どこかの場で、意見として、5年生に火の扱いをさせるのは適切ではないというような一文が出ており驚いた。</p> <p>そんなことをすれば、所沢市は火も付けられないような人間を育てることになる。教育大綱の中には、「豊かな自然がなくてはならない。」。豊かな自然も、ただ鑑賞しているのではなく、その中で生きていくということの豊かな自然である。</p> <p>それから、「目指す四つのこと」の二つ目、「人と自然の中で、・・・。」。自然の中で生き抜いていく力ということで、火の話で思いついたが、所沢にあるカルチャーパークでの話である。前教育長はカルチャーパークに思い入れがあり、色々な活用方法がないだろうかと考えていらっしやった。</p> <p>議事録にも載っていると思うが、カルチャーパークで各小学校2年生あたりで、教科書の展開で火を使って炊事をするなど、そういったことを全部の子どもたちが経験するよう出来ないかと。</p> <p>意見として出されたに留まり、その後進んでいないと思うが、教育大綱の運用状況は具体性を持った報告がなされるべきで、「毎年これをやる。去年から今年にかけてはこういうことが出来た。来年から、こういうことをし始めることが決定している。」など、そういった報告が必要である。</p> <p>今持っている、所沢市の自然財産の活用の方向をもっと具体的に出して少しでも取組を進めて、来年は今回と同じように、大綱の実施状況の説明が事務局からあると良い。</p> <p>「学び創造アクティブプラン」における子どもたちの動きとして、こういうことが出来たという報告が具体的にされることを期待する。</p>
委員	<p>カルチャーパークでの飯盒炊飯については、クラス数に比べてかまどの数が不足することや、屋根がないので悪天候の場合に難しく、バス代のキャンセル料負担等を考慮すると、なかなか難しいという事情がある。</p> <p>また、火を使わせるということに、学校も躊躇し始めているので、そこをどうやって学校側が気持ちを変えていくかというのも難しいところである。</p> <p>私としては、ぜひ、火を扱ったりすることもやらせたいと思っている。</p>
委員	<p>教育大綱は、大人の方の姿勢も非常に求められているため、大変だと思った。また、子どもたちにとってリアルな体験が非常に大事だと思ったリアルで経験していることというのが、本当に実になり、その先の人生に生きていくものだとも信じている。</p> <p>大綱の中で、「自分に自信を持ち、人の素晴らしさを知る」というところも良いと思ったのが、まずやはり子どものその年齢において、自分を信じる、自分を肯定するということがあり、「自分がこういうことをされたら嫌だから、別の人にはしない」とか、「相手が悲しんでいるのは、こういうことが理由か」と推測したり、相手の気持ちにはなれなくても、「痛いね」とか「辛</p>

	<p>いね」などという言葉が出てくるのは、やはり自分が自信を持っていることで紡ぎ出されてくるのだと思う。</p> <p>自分に自信を持つにはどうすれば良いかと考えたが、やはり一つ一つの経験であり、比べられない。その子にとって「よくやった」とか「できた」という感覚が、時間が経っていくと「ああ、自分はこれでいいのだ。」と比較をする。自分の足で立っていき、こういったことの積み重ねで大きくなっていくのではないか、と思った。</p>
委員	<p>この大綱ができて少し時間がたち社会が変わってきて、教育現場の中でもいろいろな事件があり、それで感じたことだが、一度失敗しても、直しそれからその別のことを考えるとかそういうことを深く伝えてもよいのではないか。今選挙の投票率が低い、こういうものを守るための社会の仕組みをプラス1としてつけてもらえればいいのではないか。</p> <p>子どもを大事にする前提が何なのかを具体化してほしい。対立する意見が出てくると非難したり、一つの方向に向けようとする動きがあるが、これから社会で対立する意見は沢山出てくる。世界的に法の支配が崩れてきている。</p> <p>子どもに対してだけでなく、市民に対してもそういう設定があるということを出したい。本当に世の中が変わってきているという感覚が強い。それをどこかに残したい。</p>
議長	<p>教育大綱は、むしろ社会的なアプローチで、大人に対しても教育はあるということを考える。</p>
委員	<p>教育大綱をもし入学してくる子どもたちに配るのであれば、大人にもつけてもらえば。</p>
委員	<p>「もっと大人が動かなければ」というのがあったが、文章化する時にニュアンスが強すぎるため変えた経緯がある。</p> <p>先生が社会科の授業で取り上げるなどの機会があっても良いと思う。</p> <p>それぞれの項目で何が足りないか見ていただき、事務局でとりまとめのうえ、各関係部局で諮ってもらい具体的な行動としての報告が欲しい。</p>
議長	<p>事務局は、大綱に則っての具体的な事業について、何かわかるか。</p>
事務局	<p>把握しておりません。</p>
議長	<p>では、今日の会議でいただいたご意見を受け、次回会議ではバーチャルをリアルと繋げたり、比較ではなく、やり直したり避けたり我慢したり、そういうことを認める何かがないか、大人に対するアプローチなど、学校教育の中で何かできることがあればこれをやった、と具体的に言ってほしい。</p>
委員	<p>感想になってしまうが、自分の体験からしても良いことだと思うし、経験の蓄積が子どもの成長には必要となってくると思う。</p>

議長	<p>教育大綱の最後に、大人の決意が書いてある。「こどもを大切に<u>する</u>マチ所沢」としていたが、議員から意見が入り、「こどもが<u>大切にされる</u>マチ所沢」に変わった。こちらの思いと議員の思いが違くと、このように大きく変わってしまうことがある。</p>
委員	<p>バーチャルの二元論というのは、バーチャルで得た知識を、リアルで体験するとより生きてくるという意味で言っている。バーチャルでの命とリアルでの命の大きさは違う。バーチャルだけで育ってきた人は、命を軽く見てしまうところがあると思う。現実の命の重さを知らしめるような体験をすることが大切。</p>
委員	<p>基礎学力について、これを全員が身につけられると書いてある。市の施策としてやらなくてはならないことがあると思うが、教育長か学校教育部長が、今年のところんの自習室について紹介してほしい。それを企画の方も知ってもらい、これが議事録として残り、今年こういうことが始まっているという報告がほしい。</p>
学校教育 部長	<p>ところん自習室は、今年度の新規事業で、その目的は、学力向上があるがそれと平行して「子どもと大人が交わることによる子ども達の学習意欲の向上」もある。</p> <p>教育センターで1日100名の学習ボランティアを募集したところ、100名を超える募集が市内の小中学校からあり、夏休み4日間にわたり行った。ボランティアを集めるのに少し苦労したが、当日は大人1人にあたり3名程度の割り当てができた。子ども達にはシールを貼って称賛したり、バッジをあげたり、子ども達からは楽しかったという感想があった。</p> <p>手探りで始めたが、今回でニーズが確認できたので、来年度は、東西南北会場を増やしたいと思っている。</p>
教育総務 部長	<p>ところん自習室を始めた理由はいくつかあるが、一つは生涯学習推進センターの若者の利用が少ないことがある。放課後の子ども達のサードプレイスとして、事業化した。パソコンを持ってきて勉強したり、互いに教えあいながら勉強することも可能。夏休み期間限定で、8つのまちづくりセンターでも実施しているが、今後更に学習できる場所を増やしていきたい。</p>
委員	<p>8つのまちづくりセンターで実施しているとのことだが、部屋が埋まっていることもあるだろう。廊下でも机さえあれば実施可能と思うので細々と続けてもらいたい。</p> <p>こうした具体的な取り組みを来年度報告してほしい。</p>

議長	<p>私は、本当は、九九などは公文式のようなところでやれば力がつくと思う。できることなら、塾に通わず放課後も勉強せず、授業の場で理解できるのが一番良いと思う。授業中に一人の先生が40人の生徒を教えると、わかっている生徒とわからない生徒がいる。そこに、地域の人や大学生らが何人かついてその場で教えるのが良いと思う。</p> <p>本来それは学校の先生が放課後にやるべきだと思うが、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校にいる間に、同じ45分過ごす中で分かるようにさせたい。 ②その次に放課後に来る。 ③その次に、ところん自習室のようなところに、塾には行けないけど教えてもらいたいという子が放課後に来る <p>というような段階だと思う。第1段階も第2段階も残念だからできないので、第3段階が始まったのだと思う。そういう命題意識についてどう思う。</p>
委員	<p>第1段階ができない理由の一つは、例えば算数の習熟度については、クラスを2つに分けて予算の枠で探せればよいという意見があるが、その先生が探せない。教員の世界にハードでブラックという印象がつきすぎてしまっている。</p> <p>そればかりでなくて、例えば、先生が産休に入ったら、その穴埋めもできないというひっ迫した状態となっている。なので、第1段階ができなくなる。</p> <p>所沢市は募集すれば枠が埋まるようにするためには、先生の日常の教科学習の準備と実際の授業以外でかかっている負担をできるだけ減らしていくことや、残業時間が45時間を超えないようにするということは、所沢市は全県の中でも、結構良くできているという報告ができれば、先生が集まってくると思う。</p> <p>委員会事務局や学校の協力体制が、保護者に対してももっと強気に行ってもよいのではないか。そうすることで第1段階がクリアになれば、第3段階と一緒に、段々全員がということに繋がると思う。確かに第1段階が行き詰っていると思う。</p>
委員	<p>第1段階のもう一つ前の話だと思う。本来は家庭が小学生の勉強をみるもの。私も何度も自分の子どもの教科書読みに付き合ったし、私自身も平仮名や九九や親に教えてもらい、家で勉強する習慣が、小学生の段階でついていた。</p> <p>今は子どもの面倒を見るよりも稼ぐことが大事なので、子どもの面倒を見ることのできるのは、ある程度余裕のある家庭。子どもが家で勉強しない。だから学校だけで全てをやろうとすると、どうしても40人全ての子どもに同じ力をつけさせるのは難しい。半分の20人でも厳しい。本当は小さい頃から家庭学習をやらせるよう保護者に提案すべきだが、残念ながらそれができる人や機関がどこにもない。だからかなり厳しい。</p> <p>ところん自習室は、市長が言うように段階を踏むということではなく、全く違う目的をもっていて、穴をうめてあげるということ、また地域総がかり</p>

	<p>で子どもの面倒をみましようということに意識の矯正の意味もある。大学生支援員等が地域総がかりで子どもの面倒を見ることの楽しさや、子ども達に教えてもらうことの楽しさを知ってもらう。</p> <p>単純に算数の計算ができるようになることが一番の目的ではなく、あらゆることが複合していろんなことを感じてもらう4日間だと思う。市長が言うように、学校の先生がやるのが前提だという話だが。</p>
議長	<p>それが前提だが、授業に人が来て、その間に複数人で教える。それが第1段階でできればよい。できそうでないと分かったら、その子にそこで言ってあげる。そういうのができればよいが、できないから第3段階となる。</p>
委員	<p>今回は公文式。ところん自習室では、プリントが何種類もあって順番に解いていく。資料を学校に渡せば誰でもできる仕組みとなっている。</p> <p>狭山市では、市民大学の卒業生である高齢者が学校に学校支援ボランティアとして学校に入り、英語などの指導をしている。そういう仕組みづくりをこちらでも考えてはいかがか。お年寄りのサロンのようなものを学校につくり、高齢者がいつでも集まれる場所をつくる。高齢者の集会所を作り、草刈や勉強の手伝いなど、必要な時に手伝いに来てもらう、というのは取り入れられるのではないかと思う。</p>
委員	<p>子どもを育てる親として、学校に望むことと望まないことがある。</p> <p>子どもの能力は多様だから、それを同じにしようと思うと子どもが伸びなくなる。できているところを触れず、できないところだけを責めると、子ども自身が、自分がだめなのだと思う理屈がある。それが子どもの能力やエネルギーを倦怠させてしまうとすごく感じている。</p> <p>算数ができれば算数だけであればよいのだ、というくらいの時代になっている。世の中で活躍している人は、能力が人よりもずば抜けている。ずば抜けているエネルギーは、どこか他から継ぎ足しているから、何かが欠ける。芸能人はそうで、歌ったり踊ったり喋ったりする能力はあるけれども、その他のこととアンバランスだからこそ世の中に出る。みんな同じになるようにすると、普通の人間ができあがり、世の中を動かすような人にはならない。</p> <p>大量生産の時代では、何でもできる人を育てるのが学校の使命だった気がするが、親が突出した人に育てようとしても、学校に預けると、「つるん」とした人間になって帰ってくる。</p> <p>それでは世の中で通用しない。経済が腐りかけている今の日本で生き残るのは、社長より能力が長けている、「尖ったもの」を持っている人が会社をつくる。</p>
委員	<p>今は、能力が長けた尖がった人間を採用しているわけで、そうでない人間をつくるには預けない方がよい、みたいな極端な話になる。学校においても、例えば、特別学級に才能が秘められていると私は思っている。そうした人たちの能力を育てるような、皆が一緒に同じ線路を歩かないといけな</p>

	<p>いという考え方を和らげることも必要だと思う。</p> <p>また、そうした世の中のニーズと、保護者の希望と、学校と、公として一緒に育てないといけないということがバッティングしているとしたら、これはお互い不幸ではないかと思う。</p>
委員	<p>ある物理学者の研究室を何度か訪問したことがあるが、能力は突出しているが、時間を守らなかったり、乱雑にしていたりする。</p>
委員	<p>その子が普通の学校にいたら、それこそ就学支援の対象となっていたかもしれない。だが、彼があそこまで伸びたのは、誰かが途中で声掛けしているのだろう。</p>
委員	<p>それは母親かもしれない。</p>
委員	<p>その物理学者の彼も、自分に自信を持つ良い出会いがあったのだと思う。</p>
委員	<p>所沢でも1人でも多く、自分に自信を持つ子が増えてくれば、会社を率いたり、天才と言われなくても、普通の企業に勤めて頑張ってくれる、大人になっても頑張ってくれる人が増えるのがふるさと所沢の理想だと思う。</p>
委員	<p>自信を持たせるために、第一に我々大人がまず声を掛けることだ。</p> <p>今年、私が行った学校で、図工の授業を見ていたら、ある女の子が私に「私の所にまだ先生は来てくれていない」と言っていたが、その後先生が行き、少しアドバイスしたら、表情がぱあっと変わったということがあった。</p> <p>不幸な事件が起きてしまった学校の話だが、目立たず、悪さもしない、部活でもレギュラーでないなど、どの時間帯にも声を掛けてくれる先生がいないと、自分に自信を持つのは大変難しいのだと思う。そんな時に、友達からの一言の悪口がその子を倒してしまう。</p> <p>誰かが声を掛けたり、仕事を与えたり、または「君がやっていること面白いね」とか、「君の意見は他の人と違うけど、とても面白いよ」という言葉があれば、あの3人なり4人なりの人生は変わっていたのだと思う。</p> <p>市長も言ったように、授業で1回も挙手出来ない、分かった振りをする子に、例えば、おばあちゃんが横から「そこは合ってるよ」と言ってくれるだけで全然違う。だからそういう声掛けをする。すべての子が1日1回は声を掛けられるような学校の体制を作れないものか。</p>
委員	<p>ただ、予算があまりにも悲しい。</p>
委員	<p>ここまでの効果をこの予算で上げられるということが素晴らしい。</p> <p>現在は残念ながら、教育センターへ送り迎えしてくれる保護者がいる家庭の子しか来られない。親が無関心でも、子どもが自分で歩いていける所に開設するには、全小中学校で出来る状態にならないと意味はない。</p> <p>それは相当の金額で、おそらく難しくなってしまうので、お金をかけなくてもどれぐらいの効果が得られるか、我々の挑戦でもある。来年度、何ヶ所かに拡大するためのかさ上げくらいはできるだろうか。</p>
委員	<p>一番目に見えないものかもしれないが、もう少しお金をかけてほしい。</p> <p>40人もいると見ているつもりでも見落とすこともある。また、家によっ</p>

	<p>ては愛情が与えられてこないのです、よく見てもらわないとすぐに落ち込んでしまう。家で褒められ大事にされていれば、学校で多少先生が変でも何とかなる。家庭教育学級や子育て講座をしても、本当に来てほしい家庭は来ないし、学校は家庭に手を入れられないが、やれることはとにかくやらないと。</p> <p>面倒をみたいという思いはあっても、現実には教員の勤務時間が長い。文科省の問題なので市に言うものではないが、毎日5時間授業なら、教員は子どもたちに手をかけられるし、放課後も触れ合える時間が沢山あり、部活の問題も解消する。日課表を研究すると、もしかしたら時間が作り出せるかもしれないので、少し研究してみたい。</p>
委員	<p>どんなに世の中が進化しても、子育てはアナログなものなのだと思う。</p> <p>だが、やはり子どもを育てて良かったと思う。子どもが自分に自信を持つことについて色々考えたが、親に褒められる、信頼される、信じられるっていうのは、きっと一番大きなエネルギーになる。時々、子どもを信じられなくなる時があるが、話をすれば「そういうことだったんだ」と分かるし、なるべくその子らしさを見て育てていきたいと思う。</p>
委員	<p>学校に入る前に大人が出来ることは沢山あると感じている。一概には言えないが、家庭で子育てがしやすいな、ここの街だと育てやすいなと余裕ができる子どもにも伝わって、その家なりに成長を見守って育てていけるのではないか。身の回りでも、環境の違いにかかわらず、どの親も子どもを大事に思っていたし、そういう気持ちは子どもにも伝わっていくものと思う。その子自身が何を求めている、何に興味を持ってるかを見守り、そこを伸ばしてあげられるような気持ちで接したい。</p>
議長	<p>本日の内容をまとめる。</p> <p>まず教育大綱を通じて、その心をどういう政策でどう展開していくか、そして、どれがどうなったか言えるようになることが良い。</p> <p>ポイントは、「体験」。バーチャルの世界はもう否定しようがない中で、リアルな世界をどう体験させていくのか。大人に対してどうアプローチするか、子どもの頃からどうアプローチできるのかを少し探ってみよう。</p> <p>そして、どうしても学校の先生は、全体を同じように進めてしまうことがあるので、子どもの伸びるところをきちんと認め伸ばしていくこと、先生にそうしたポイントを意識してもらうことを考えられないだろうか。一つの策として言葉にすれば政策が出来るかもしれない。</p> <p>一言声を掛けてもらえるだけで、助かる子がいるのは確実なので、そこをどう担保していくのか。どうしたら皆で温かい教育体制や環境を作っていけるのかも考えて欲しい。そして、先生の生活も含めて、どのようにカリキュラムを変えれば、そのような体制が取りやすくなるのか、そうしたことを意識して教育大綱について考えていきたいと思うので、教育委員会に伝えてほしい。</p>